

事業名	平成 30 年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「インバウンド受入体制底上げ作戦」	
実施主体	輪島市	
活動形態	活動場所	輪島市、金沢市
	活動人数	金沢大学 2 名、石川県立大学 1 名、輪島市職員 2 名 計 5 名
	期間	平成 30 年 8 月～11 月（延べ 10 日間）
活動内容	<p>&lt;背景・課題&gt;</p> <p>2016 年に訪日外国人が初めて年間 2000 万人を突破。2020 年の東京五輪開催に向けて更に増えることが期待される。また、輪島市は外国人が好む豊かな自然や新鮮な魚介、輪島塗、キリコといった伝統文化が盛んなことから、外国人旅行者の関心を引き付ける伸びしろがある一方で、市内の宿泊者数全体に占める外国人の割合は 1.5%（平成 29 年）と、インバウンドの受け入れがまだまだ進んでいない状況。そこで、市内の宿泊施設においてインバウンド受け入れメリットやポイントを調査し、宿泊施設経営者に対して意識啓発を行った。</p> <p>&lt;活動概要&gt;</p> <p>金沢市にある外国人専用観光案内所や、外国人旅行者の受け入れに積極的な宿泊施設において、外国人旅行者が求めていることや旅の傾向などについて聞き取り調査を行った。Wi-Fi 設備の重要性、平日休日関係なく行動し連泊が多い、日本の自然風景への関心が高いなどの情報を得た。</p> <p>外国人宿泊者受け入れに力を入れ、成功している国内の 5 つの宿泊旅館（熊本、和歌山、岐阜、大阪、静岡）に聞き取り調査を行った。客室の内装やデザインのバリエーション豊かな貸浴衣など、外国人宿泊客に好評なサービスや設備をまとめた。また、外国人宿泊者を受け入れることにより、平日の稼働率が上がるなどのメリットも明らかになった。</p> <p>輪島市内の全宿泊施設にインバウンド受け入れに対するアンケート調査を行うとともに、輪島市内の 3 施設で現地調査を行った。輪島の魅力は、里山里海の豊かな自然とそこで収穫できる海山の幸、心が洗われる日本の原風景などであると再認識した。宿泊施設側でも輪島の魅力をもっと観光客に伝えたいと感じていることが分かった。</p> <p>&lt;活動成果&gt;</p> <p>成果発表会を開催し、輪島市内の宿泊施設経営者に対して、外国人宿泊客増加に向けての提案を行った。Wi-Fi の整備、SNS での情報発信、ドタキャン対策としてクレジットカードでの事前決済、日本文化体験の実施など 9 項目を挙げ、外国人に合わせすぎのではなく、日本を体験してもらうことが外国人旅行者のニーズにマッチしているとした。</p> <p>また、外国語でのコミュニケーションに不安がある時に使えるものとして、日本語と外国語を併記した「指さしシート」を紹介。シートを見せて、指で示</p>	

しながら意思疎通を図ることができて便利と提案。発表後には、実際にメンバーで作成にも取り組んだ。

ウェブサイト上に、宿泊施設での食事や入浴マナーなどを外国語で説明する素材やツールがたくさんあり、ゼロから作るのではなく、既にあるものを活用して外国人宿泊客の受け入れ準備も気軽にできると紹介した。

事業名	平成 30 年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「大学生が身近に感じる企業を増やそう」	
実施主体	珠洲市	
活動形態	活動場所	珠洲市、金沢市
	活動人数	金沢大学 2 名、金沢星稜大学 1 名、珠洲市職員 3 名 計 6 名
	期間	平成 30 年 7 月～12 月（延べ 20 日間）
活動内容	<p>&lt;背景・課題&gt;</p> <p>珠洲市内の企業における就職者数の増加に向けて、若者に対して市内の企業の認知度向上を図る。そこで、企業の魅力を学生目線で捉えた PR 動画を作成するとともに、珠洲市で働く人と学生をつなぐ交流会の企画・運営を行い、作成した PR 動画を上映することで、珠洲市で働く魅力を伝える。</p> <p>&lt;活動概要&gt;</p> <p>7～9 月の 2 カ月間で、珠洲市内の企業 3 社を取り上げた PR 動画を制作した。北陸放送（MR0）のプロデューサーを講師に迎え、映像制作の技術や取材・インタビューのポイントを学ぶ講習会を実施し、取材撮影の準備を行った。</p> <p>また、珠洲市内の企業情報を発信する「珠洲おしごとナビ」に登録する企業がプレゼン大会を行い、取材企業を選定し、その結果、鉢ヶ崎リゾート振興協会、第三長寿園、イオスエンジニアリング&amp;サービスの 3 社を取材することに決定した。</p> <p>動画制作は、各メンバーそれぞれが担当する企業にヒアリングし、動画のコンセプトを共有して意見交換しながら取り組んだ。事前の動画制作講習会で学んだことを生かし、絵コンテ作り、ロケハンなど本格的な編集作業を進めた。内容を構成する上で大切にしたのは「学生目線」という姿勢。取材を通して、企業で働く人や施設の利用者など様々な人との交流も体験できた。</p> <p>珠洲で働く人と学生をつなぐ交流会を「すずがたり」と銘打って開催した。事前の会場打ち合わせや、参加学生の募集に向けた周知チラシを作成し配布した。</p> <p>&lt;活動成果&gt;</p> <p>10 月の活動報告会で、取材した企業に向けて PR 動画をお披露目。</p> <p>12 月に金沢市内で開いた「すずがたり」には、学生や珠洲市内で働くゲストら 19 人の参加を得た。メンバーが制作した PR 動画を上映し、今回の取り組みを通して感じた各企業の魅力を紹介した。珠洲市への移住者や U ターン者、珠洲の祭りに参加した学生らがゲストスピーカーとなり、珠洲の魅力やライフスタイルの充実など、「珠洲で働き暮らすこと」についても意見交換した。参加者からは、将来的に珠洲市で働いてみたいと意欲的な声もあり、就職先を選ぶ選択肢の一つとして珠洲を考えるきっかけ作りを提供することができた。</p>	

事業名	平成 30 年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「イベントマーケティングにチャレンジ」	
実施主体	穴水町	
活動形態	活動場所	穴水町
	活動人数	金沢大学 3 名、金沢星稜大学 1 名、穴水町職員 2 名、地域おこし協力隊 1 名 計 7 名
	期間	平成 30 年 8 月～平成 31 年 3 月（延べ 11 日）
活動内容	<p>&lt;背景・課題&gt;</p> <p>全国の婚活イベントのマーケティング調査を踏まえた、地域資源を生かした婚活イベントの企画開催に挑戦する。広く参加を呼び掛けることで、穴水町への定住、移住を促進するとともに、子育て世帯の人口増、少子化対策、関係人口の拡大にもつなげる。参加者は男女各 15 人、カップル 5 組の成立を目標に取り組んだ。</p> <p>&lt;活動概要&gt;</p> <p>イベントマーケティングの要素を取り入れ、穴水町で過去に開催されたイベントの実績を振り返り、課題を整理。女性を呼び込むこと、穴水町の魅力を伝えることをテーマに、全国の類似イベントを調査し、解決策のヒントを探した。</p> <p>いしかわ結婚支援セミナーの協力を得て、香川県、山梨県、志賀町など婚活イベントを企画している県内外の団体に聞き取り調査し、成功する秘訣やポイントなどをヒアリングした。</p> <p>調査をもとに、婚活イベントは穴水町の観光地を舞台に、特産の海産物を味わうことができることや、景色を楽しみながら散策し、男女の仲を深められる内容で企画。穴水町（住民福祉課・婚活事業担当）に提案した。</p> <p>イベントの開催に向けて、婚活イベントへの参加を呼び掛けるポスターを作成し、学生自ら町内の飲食店や観光施設を回り、ポスターの掲示協力を依頼した。</p> <p>会場の下見やお店の担当者との事前打ち合わせのほか、イベント当日は参加者の気持ちを盛り上げるために、会場の飾り付けも工夫した。</p> <p>&lt;活動成果&gt;</p> <p>企画した婚活イベント「海鮮バーベキューパーティー in 穴水～なぎさで Get! あなたの恋と海の幸を～」を 11 月 4 日に開催した。町内外から男性 11 人、女性 8 人の計 19 人が参加し、カップルは 4 組成立した。</p> <p>イベントは、写真映えスポットでの撮影や、自己紹介を題材にしたオリジナルビンゴゲームのほか、穴水らしさを打ち出そうとボラ待ち櫓を眺めることができる「潮騒の道」の散策、能登ワイン工場の見学、海鮮バーベキューなどのラインナップで構成した。アクティブ感と非日常感を演出することを狙い、女性が参加しやすい雰囲気をつくることにも重点を置いた。</p>	

	<p>町での今後の継続実施に向けて、開催した婚活イベントの振り返り、気づいたことや改善点などを穴水町に報告した。告知には広範囲な情報網を持つインフルエンサーを活用すること、イベントにはグループで取り組めるアクティブ要素を取り入れると参加者が打ち解けやすくなること、穴水町を前面に打ち出した内容は高評価だったことなどを発表した。</p>
--	---

事業名	平成 30 年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「能登町の未来をデザインする」	
実施主体	能登町	
活動形態	活動場所	能登町、金沢市
	活動人数	金沢大学 1 名、金沢星稜大学 2 名、大阪教育大学 1 名、能登町職員 2 名 計 6 名
	期間	平成 30 年 7 月～平成 31 年 2 月（延べ 15 日間）
活動内容	<p>&lt;背景・課題&gt;</p> <p>人口減少が進む能登町で、若者の UI ターンの促進が課題となっている。町は 2030 年に若者が集まる能登町になることを目標に掲げる。そこで、地元の中学生に町への愛着を深めてもらうとともに、将来働く場所、生活する場所として能登町が秘めている可能性と一緒に考えるキャリア授業を実施し、大学生が中学生から意見を引き出すファシリテーターに挑戦した。</p> <p>&lt;活動概要&gt;</p> <p>能登町の人口や産業データを RESAS 等で調査し、現状を把握した。また、地元の金融機関である興能信用金庫による起業講義の受講や、能登高校の学生に町の魅力や将来の仕事に関するヒアリングを実施した。</p> <p>能登町の観光体験施設「ケロンの小さな村」の村長・上乘秀雄氏にヒアリングを行い、「能登町にないものを求めず、能登町にあるものを使ってアイデアを出す」との示唆から、コンセプトの大切さを学んだ。</p> <p>近い将来到来する超スマート社会の要素も鑑みるため、IT に詳しい一般社団法人コード・フォー・カナザワ代表理事の福島健一郎氏に、AI や IoT などを活用して地域コミュニティの課題を解決する取り組みを学んだ。</p> <p>中学生に対する授業準備として、授業時間を提供してくださる能都中学校において、校長先生や 2 学年担任教諭と打ち合わせを行い、キャリア教育への思いなどを聞き、授業の準備に生かした。</p> <p>&lt;活動成果&gt;</p> <p>11 月と 12 月の 2 回にわたり、「未来の仕事をデザインする」をテーマに、能都中学校で授業。2 年生 52 人と能登の魅力や、それを生かした能登町での将来的な就業、暮らしなどについてアイデアを出し合った。</p> <p>11 月の授業では、「能登町の可能性を見つける」と題して、能登町にある資源を挙げながら、将来のニーズ、AI や IoT の活用なども見据え、将来の職業や働き方について意見を出し合った。大学生がファシリテーターを務め、アイデアの整理や外部からの視点を提供した。中学生からは、町の魅力として豊かな自然や美味しい海産物などが挙がり、人工知能 (AI) を利用した観光案内や漁師の知恵のデータ化、自然や漁業体験ができるアプリ開発などが提案された。</p> <p>12 月の授業では、11 月の授業で中学生から出た意見を基に、コンセプトを</p>	

詰め、社会的なニーズの有無など、アイデアに磨きをかけた。

2月末には、能登町役場において、中学生が授業でまとめたアイデアを4グループ発表するとともに、インターンシップ生からは中学校のキャリア教育授業に継続して大学生が関わることについて、メリットや改善点等を報告した。